

分への『誂え』づくりであり、自分の体の寸法や好み、場合によっては癖までも考慮したものは自分にやさしいものになってくる。そうして培った経験や使った体験を原点にもものづくりを進めてきた時代は、ものづくりそのものの中に「人にやさしいもの」という考えが含まれていたし、産業革命による技術革新の中で生まれたデザインが掲げた命題も、「技術は人のために」であり、計画

や造形を通して「技術を人に近づける」ことがデザイナーの使命であった。このような観点から、現代文明に生きる人間を対象として「ヒト」を生物誕生からの時間軸の中で研究し、現代人の生活の道具や空間が人間の特性に基づいて構築されるべきと考える生理人類学的な立場を取り入れたデザインについての研究を進めている。

③ デザイン情報発信基地としての機能強化研究

企画・デザイン部 兵 頭 敬一郎
豊 田 修 身

平成6年度に発足して当初のデザイン部門は、デザインを経営戦略の重要な要素として位置づけ、県内産業全般を対象にデザインレベルの向上のための研究・支援を行っている。中でもデザインの導入による企業の自社製品開発力強化の為には情報が重要な役割を担っている。今日、様々なデータベース構築が各地各所で取り組まれており、より有効な情報の合理的な整備のあり方を模索する中で、全国のデザイン関連機関から発信されている情報を始め、デザイン専門図書や定期刊行物の収集・整理を行い、デザインライブラリーとしての機能を充実させるとともに、情報発信基地としてデザイン情報の発信を行うことを目的とする。

具体的には①体系的に整理された知識を得る手段として、基礎的なデザイン理論や商品知識、知的所有権等デザインに関連する図書の収集を、広い分野を網羅するよ

う進めている。②鮮度の高い情報をとということで、コンピュータ関連、トレンド情報、デザインの動向等に関する定期刊行物の収集を行う。③全国のデザイン振興団体や関係機関の実態把握を行い地域や各分野の独自性のある研究やデザイン振興策に反映させるため、デザイン関連団体情報誌の収集を行う。

また情報管理として①利用が見込まれる情報、外部の情報サービスでは入手できない情報、研究・指導において必要とする情報を収集・所蔵することにより、一般に公開すると同時に、図書に関しては、外部からの検索に応える。②情報利用のニーズが発生した時点で、外部から必要情報のみを入手する。③A4サイズ1枚のデザインペーパーとして定期的な独自の情報発信の実施等を進めている。